

研究ノート

自律的学習者を育てる授業アイデア① リフレクションを取り入れた TOEIC 授業の実践報告

櫻井陽子

要旨

TOEIC テストのスコアアップを含め英語力向上の為には、時間を費やし継続して学習に取り組むことが重要である。しかしながら、大学での TOEIC 授業の多くは週1回90分しかなく、英語力を伸ばしスコアを向上させるには十分な時間とは言い難いのが現状であろう。また、一概にテスト受検技術やスコアアップに必要な英語力の習得といっても、学習スタイルや弱点は学習者によって多種多様であり、そのようなニーズに授業内ですべて応える事は困難である。そこで重要となるのが、学習者が授業内外だけでなく、学期終了後も、自律して英語学習をしていけるよう促していく事である。本稿は、3年生と4年生を対象とした選択科目である TOEIC III で実施されたリフレクション活動を紹介するとともに、その活動を通して、学生がどんな変化や学びを実感し、どのような事に気付いたのかを具体的なコメントとともに紹介し、活動内容の考察をする。

キーワード: TOEIC, リフレクション, 自律的学習態度, 自律的学習者

1. 指導目標

ここで紹介するリフレクション活動は、Freeman の KASA Framework (1989) を参考に、して指導目標が立てられた。KASA Framework とは Knowledge (知識), Attitude (態度), Skills (スキル), Awareness (気づき) の4つの構成要素から成り、Language teaching とはこれら4つのカテゴリーに基づき行なわれる教師の意思決定過程であるというのが Freeman の考えである。本活動は、これら4つの要素を英語学習と自律的学習態度の育成という観点から応用し、以下4つの目標がたてられている。英語知識の習得だけでなく、自律的学習者となる為に必要なスキル、気づき、態度を養う事も考慮されている。

1. 学習内容を記録することにより知識の定着を図る。
2. 授業で紹介された TOEIC 受検技術や言語学習活動の経験を意識的かつ系統立ててリフレクションするスキルを身につける。またその過程において、その受検技術や活動の有効性を（教師に頼ることなく）自身で見極めようとする態度を養う。
3. 学習過程や進歩を観察し記録することにより、TOEIC スコアアップの為の課題、英語学習者としての弱点、自分にあった勉強方法などを具体的に認識する。またそれらの認識や課題を英語力向上のためにどのように活かしていくか（克服していくか）を自身で決断して実行していく。
4. 意識的に自己観察、自己分析、自己評価する体験を通して、自律的学習の重要性に気づき、学期終了後も積極的にリフレクションを続けていく態度を養う。

2.1 使用教材とその目的：通常のリフレクションの記録

学生はリフレクションフォーマット（資料1）を使用し、学期を通してリフレクションを行い記録していく。このリフレクションフォーマットは Kolb による Experiential Learning Cycle (1983) を学生のニーズに合うよう部分的に変更、簡略化して作成されており、「講義の振り返り」、「振り返った内容に対する分析・今後の計画や目標」という2項目から構成されている。前半の「講義の振り返り」部分は、講義での学習経験の観察と描写を目的としており、講義を振り返り、どんな発見があったのか、どんな事が上手くいったのか（上手くいかなかったのか）、どんな気づきがあったのかなど、自己観察し記述する事を目的としている。後半部分は、記述された経験に対する分析、アクションプランの設定、経過観察が目的となっている。

資料1 通常のリフレクションフォーマット

1	2：授業の振り返り	3：振り返った内容に対する分析・今後の計画や目標
日付	今日の講義で・・・ 1) 学んだことや気づいたこと 2) 上手くいったこと 3) 上手くいかなかったこと	a) 2：授業の振り返りで書いたことに対する分析 (なぜ上手くいったか、なぜ上手くいかなかったかなど原因と考えられるものとその対処方法など) b) a) で書いた内容に関して今後の計画 (どのように続けて行くのか具体的な計画、どのように様子を見るのか、どのように自分なりにアレンジしていくのか、学んだことや気づいた事を今後どのように生かしていくかの具体的な計画など) c) 以前に立てた計画の途中経過

このリフレクションフォーマットを継続的に使用していく事により、経験（観察）→経験の描写→経験の分析→アクションプランの設定→経験、というサイクル（図1）が構築されリフレクションのプロセスを促していく。

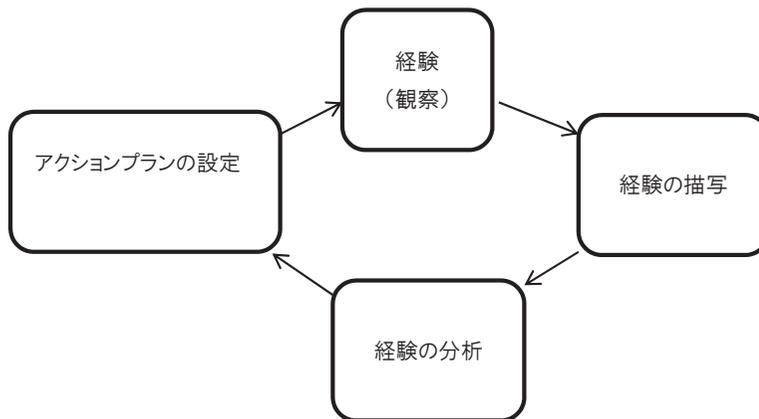


図1 リフレクションの構成要素とサイクル

2.2 使用教材とその目的：ファイナルリフレクション

通常のリフレクションが、講義90分間の個々の経験に重点を置いてリフレクションするのに対して、学期最後に実施されるファイナルリフレクション（資料2）は、半年間全体の学習経験という、より大きな枠組みでのリフレクションを目的としている。学生は、すべてのリフレクション記録を読み返し、以下2項目に自由回答する。これら2項目は、自身の学びをKASA レベルで自己評価す事に加え、具体的に次の目標を立てることにより、学期終了後にも継続して英語学習を行なっていく意識を促す事を目的としている。

資料2 ファイナルリフレクション

- | |
|--|
| <p>1. 全てのリフレクションのエントリーに目を通してください。この講義を通して、どんな事に気づきましたか？ どのような学習態度が身についたと思いますか？どんなスキルや知識が得られたと思いますか？ 上達したと感じた事がありますか？どんな事でもいいので、できるだけたくさん書いてください。</p> |
| <p>2. 全てのリフレクションのエントリーに目を通してください。TOEIC や英語学習において、今後の課題は何だと思いますか？ 今後はどのような事に取り組んでいきたいですか？</p> |

3. 実践方法

通常のリフレクションは毎回の講義終了前に15分程行われ、ファイナルリフレクションは学期最終日に自宅課題として行われる。学期全体の流れは図2のようになる。

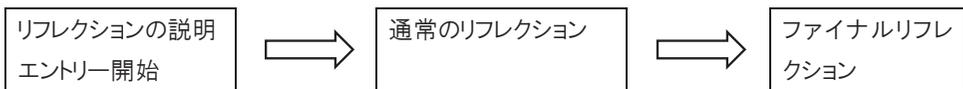


図2 おおまかな学期の流れ

授業内での学習経験を充実させるため、毎回の授業で「知識」と「実践」, 「教師の指示に従った練習」と「個人での練習」という要素をバランスよく取り入れる事がのぞましい。図3は「知識」と「実践」がどのような流れで授業に組み込まれたかを表しており、表1は前述した4つのリフレクション構成要素を考慮し計画された90分間の授業概要をあらわしている。この授業はTOEIC Part1 の受検技術をターゲットに計画されたものである。

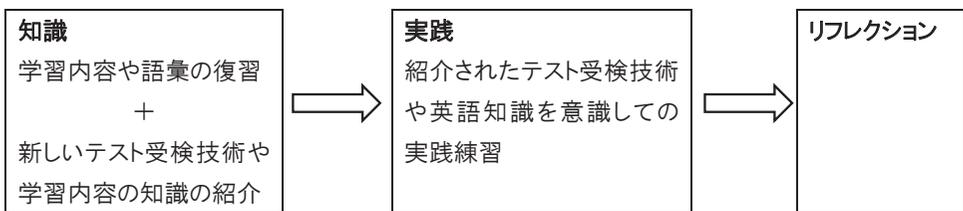


図3 講義1回分のおおまかな授業の流れ

表1 90分間の授業概要 (例)

語彙リスト	語彙リストの復習と新しい語彙の導入
概要説明	パワーポイントによる説明 問題数, 解答時間, 問題形式などの確認
受検技術の紹介	パワーポイントによる説明 1. リスニングが流れる前に確認しておくこと 2. 正解を選ぶための5つのコツと具体例 3. ペアでの内容確認と復習
受検技術の練習	上記1と2をもとにした教師の指示とアドバイスの従いながらの練習問題
実践練習	教師の指示なしでの実践練習と答え合わせ
リフレクション	リフレクションワークシートを使用してのリフレクション

リフレクションは毎回の授業でしっかりと時間を取り実施する。通常のリフレクションが自宅課題になってしまうと、やってこない学生がいる可能性があり、一定期間ごとに確実にリフレクションエントリーを重ねていくには授業内で時間を取る必要があるだろう。また、時間が経過してしまうと経験の記憶が薄れてしまう為、リフレクション内容の充実という点からも経験がまだ新しい授業中にリフレクションする事がのぞましい。

リフレクション内容に関しては、学生が自身で判断し自由に記録していく。教師は、学生がリフレクションに取り組んでいる間に机間巡回し、必要であれば個別にアドバイスを与える。アドバイスを与える際には、着眼点、分析内容、具体性、経過観察などの点から質問形式で行い、学生が自身で考えるよう促していくとよいだろう。また、リフレクションが苦手な学生もいるため、第1回目のリフレクションを行う際には、通常リフレクションフォーマット(資料1)の説明とともに、リフレクションの記入例(資料3)をいくつか示すことがのぞましい。学生が教師の評価を気にして肯定的な側面や教師の気に入るコメントを書いてしまうことを避けるため、リフレクションの趣旨をしっかりと理解させておく事も重要である。

4. 授業評価

この活動は、2年次必須科目である TOEIC I を終了した3年生と4年生を対象とした選択科目である TOEIC III 2クラスで実施された。対象学生は国際コミュニケーション学部、法学部、経済学部、経営学部に所属する TOEIC300点台から700点台の47人である。学期最終日にアンケートが実施され、学生は質問に対する答えを選び、その答えを選んだ理由または詳しい説明を記述するよう指示された。1つ目質問は、「この授業でリフレクションをすることによ

り、何か変化はあったと思いますか？」というもので、「非常にそう思う」、「結構そう思う」、「そう思う」、「わからない」、「あまりそう思わない」、「そう思わない」、「全然そう思わない」の7段階から選択するようになっている。2つ目は、「今後もリフレクションを実践したいと思いますか？」という質問で、学生は「ぜひ実践したいと思う。」、「基本的なやり方は理解したので違う方法で実践してみたい。」、「たぶん実践しないと思う。」という3つの選択肢から1つ選んで答えるよう指示された。

まず、「この授業でリフレクションをすることにより、何か変化はあったと思いますか？」という質問に対して、「非常にそう思う」と答えた23%の学生を含めて、大多数がなんらかの変化があったと回答している(資料4)。その変化がどのようなものか自由回答する欄では、ほとんどが肯定的なコメントを述べており、本リフレクション活動を通して好ましい変化を得られたと感じていることが分かった。また、学生コメントの内容も、成長や弱点の実感、勉強方法の変化、今まで感じていた事の再確認、学習意欲の上昇、弱点とその改善方法の認識、自己観察への意識など実に様々なものがあつた。それぞれの学生が、自身で感じ、考え、決断し、必要な事を学び取っていった結果なのだろうと感じる。何人かの学生のコメントは資料5で紹介されており、筆者が学びや気づきのキーワードとなると感じた部分には下線が引いてある。

また、リフレクションを今後も継続していきたいか、というアンケート結果(資料5)に関しても、32人の学生が「ぜひ実践したい」と答えており、「基本的なやり方は理解したので違う方法で実践してみたい」という9人を含めると、大部分の学生が今後もリフレクションを続けていく事に肯定的な反応を示した。「たぶん実践しないと思う」と答えた3人の学生のうち、1人は理由に対する回答なし、1人は他のアンケート項目ではリフレクションの効果を認識しつつも、「授業でやらされると、自分だとめんどくさくてやらない・・・」、もう1人は「これまでのリフレクションにより自分の苦手が把握できたが、リフレクションをしていたおかげで、苦手な部分に対しての対策も同時に考えることができたと思う。自分が良く間違える問題や傾向もきまってきた、わかってきたので、今後は毎回リフレクションをしていくのではなく、学んできたTOEICの各パートのテクニックをどのように上手く使っていくかが大切だと思う。」と回答している。残り3人は無回答であった。

5. おわりに

学生の行うリフレクションをより充実させるため、教師側がどの程度のサポートを与えるかという見極めが今後の課題の1つであろう。本活動を行った際には、学生が自身で選び決断するという点を重視し、記録内容は学生の判断に任せていた。しかしながら、紹介した2クラスに関していえば、もう少し積極的にフィードバックを与える事により、活動がより効果的になったのではないかと感じる。例えば、学期中に数回リフレクション記録を提出させるなどして、教師側でリフレクションの経過を把握し、必要に応じてリフレクションワークシートにコメントを書き入れる方法もあったであろう。教師がどの程度学習者のリフレクションプロセスに関わっていくかを、個々の学生やクラスの状況によって適切に判断していく必要があるだろう。

最後に、このようなりフレクションを用いた活動は TOEIC クラスだけでなく様々なクラスでの応用が可能である。TOEIC クラスだけでなく、担当するリーディングやリスニングクラスでの活用も考えていきたい。

参考文献

- David, Kolb. (2015). *Experiential learning: Experience as the source of learning and development* (2nd ed.). NJ: Pearson Education.
- Freeman, Donald. (1989). Teacher training, development, and decision-making. *TESOL Quarterly*, 23(1), 27-45.

資料3 通常のリフレクション(記入例)

1	2: 授業の振り返り	3: 振り返った内容に対する分析・今後の計画や目標
4/15	Part 3 と Part 4 の設問の先読みについて学び、練習した。設問を読んでから、リスニング問題に取り組むのはいいアイデアだと思ったが、実際にやってみると、先読みしても設問や選択肢の内容を忘れてしまい、あまり役に立たなかった[2-1]。	先読みしてもその内容をすぐに忘れてしまう原因の一つとして、設問や選択肢を読みなれていない事が挙げられていた[3-a]。確かに、今まであまり先読みを意識して練習する事はしてこなかったので、繰り返しにより、うまくできるようになるかもしれない[3-a]。もう少し、練習を重ねてみて、自分に合った方法かどうか見極めたい。とりあえず、来週までに最低TOEICリスニングセクション Part 3 の問題を最低10問解く。その際には問題の先読みをする[3-b]。
4/22	Part 3 や Part 4 の点数を上げるためには速読も必要であると学んだ [2-1]。確かに今まで設問や選択肢を読む時間が足りなくなることが結構あった [2-3]。また、リーディングに集中しすぎてしまい、知らずに1つの問題に時間をかけすぎてしまう傾向もある。逆に、時間を意識しすぎると適当な流し読みになってしまい、ケアレスミスが増える [2-3]。設問などはある程度パターンがあるので、数をこなし、パターンを体にしみこませること事で、設問を読む時間が短縮され、選択肢を読む時間を増やせると思う [2-1]。	限られた時間の中で早く読む事を意識した練習をしようと思った [3-b]。早く読めるようになる事はリーディングセクションの得点アップにもつながり、一石二鳥だと思った。今週の目標は家でリーディングクラスやコミュニケーションの宿題をやるときに、タイマーを使って、どれくらいの速さで読めるか確かめてみる [3-b]。そして、“時間の感覚”を体で覚える。リスニングセクションの早読み練習も最低10問行う [3-b]。また、設問などはある程度パターンがあるので、数をこなし、パターンを体にしみこませること事で、設問を読む時間が短縮され、選択肢を読む時間を増やせると思う。
5/25	設問の先読みをしても内容を忘れなくなってきた [2-2]。今日はリーディングセクションをした [2-1]。いくつか間違いがあったが、その一つは、現在完了形の間違ひだった [2-3]。現在完了はいままであまいになっていた気がする [2-1]。	先読み練習を続けてきた効果が出てきているのかもしれない [3-c]。もう少し続けてみようと思う [3-b]。今週の目標は Part 3 と Part 4 合わせて30問解く [3-b]。現在完了を中学の教科書を復習して、いくつか問題を解いてみる [3-b]。

資料4 「この授業でリフレクションをすることにより、何か変化はあったと思いますか？」 学生回答

非常にそう思う	結構そう思う	そう思う	わからない	あまりそう思わない	そう思わない	全然そう思わない	合計
11	20	12	3	0	0	1	47人

資料5 「リフレクションを今後も実践したいと思いますか？」 学生回答

ぜひ実践したいと思う。	32
基本的なやり方は理解したので違う方法で実践してみたい。	9
たぶん実践しないと思う。	3
無回答	3
合計	47人

資料5 学生のコメント（一部）

学生1（非常にそう思う）

めんどくさがりやで、その日にやったことは1週間たてば自分の欠点など忘れて、同じまちがいをくり返してばかりだったが、リフレクションを行なうことで、自分の欠点を常に意識する事ができ、同じミスをへらし、また、今まで気づけなかった苦手な部分、それを改善する方法にも気づくことができたから。

学生2（結構そう思う）

毎回講義後を書くことで、講義で学んだことや気づいた課題が明らかになり頭が整理できた。さらに、全ての講義が終わり見返すと、自分の成長や、本当に必要な課題が明確に分かる。なので、勉強方確立には大いに役立つと思った。

学生3（非常にそう思う）

読み返すと自分の弱点がすぐに分かるため、苦手な分野を特に勉強しようという意識になった。何度か同じようなことを書いているのを見るとあまり苦手なところも克服できていないと思い、勉強不足を実感する事ができた。

学生4（そう思う）

自分の苦手分野がわかったから。勉強方法が変わった。

学生5（結構そう思う）

最初は授業で学ぶポイントはもう知ってることだと思っていたけれど実際に問題を解く内にそうした基礎的な解き方が最も有効的な方法であることが実感できた。それを忘れず、今後より効率よく解くためにどうするべきか反省し成長していくためにリフレクションはとても役に立ったと思った。

学生6 (非常にそう思う)

講義中にきいたことをきいたままにしておくだけでは身につかなかったと思います。ふり返り、学んだことや、分析したことを書くことで、より意識づけができ、身についたと思います。自分の今後の課題もみつけることができましたし、次の目標も自分の中ででき、学習意欲につながりました。あと、リフレクションを読み返すことで、ポイントを忘れないので良かったです。

学生7 (非常にそう思う)

リフレクションをすることにより、文字として残るので自分の中での TOEIC に対する意識が強くなったと思います。リフレクションがなかったら課題も見えてこなかったかもしれないし、解決のために何をしていけば良いのかといったことも知れなかったのではないかと感じています。私は、リスニングが苦手だと気付いたので英語を普段から聞くように心がけました。自分の弱点を把握し、解決方法を考えて実践できたことは成長できたことだと思います。